

第1回小牧市食育推進会議 会議録

日時：令和元年6月4日（火）午後2時00分～
場所：小牧市役所東庁舎4階本会議用控室

○出席者

【食育推進会議委員】

長島会長、菱田委員、青山委員、伊藤純子委員、伊藤貴子委員、倉知委員、山口委員、堀尾委員、小久保委員、藤岡富士江委員、大野委員、福澤委員、若山委員、兼子委員、宇陀委員、小澤委員

【事務局】

余語課長、白木係長、中原

○欠席者

中東副会長、佐々木委員、藤岡祥子委員、高橋委員、愛野委員

○議題

- 1 令和元年度小牧市食育推進活動について
- 2 食育月間における取り組みについて

○配布資料

- ・令和元年度第1回小牧市食育推進会議次第
- ・令和元年度食育に関する取り組み一覧

○傍聴者

なし

【会議録】

(司会者)

- ・お忙しい中、令和元年度第1回小牧市食育推進会議に出席いただき、お礼申し上げます。
- ・当会議は、会議公開である。会議開催のお知らせを事前にホームページに掲載したところ、本日の傍聴者は0名だった。
- ・今回の会議は令和元年度の第1回目であり、本年度から新たに委員として参加する方がいる。
- ・新しい委員の任命書は、机に配布しているので確認してほしい。
- ・後ほど紹介するので、一言ずつお願いします。
- ・小牧市地域活性化営業部農政課長の余語より、あいさつを申し上げます。

(余語課長)

- ・職員の紹介をする（白木係長、中原を紹介）。
- ・食品ロス削減推進法が成立した。日本は食品ロスが多く、家庭からの食品ロスも多いが、事業者からのロスが特に多いそうだ。
- ・食品ロスの関係で、ポテトチップスの賞味期限がのびたというニュースがあった。缶に入ったものの賞味期限が12か月から13か月と1か月のびた。袋に入ったものは4か月から6か月にのびた。油を変えたり、袋の強度を変えたりして賞味期限をのばしたという。
- ・食品ロス削減推進法成立に伴い、食品ロスの推進計画を作成することになる。農政課の食育の事業の中で食品ロスについて触れているが、環境の部署でも食品ロスに関することを行っている。どちらが推進計画を作るのか話し合っていく必要がある。
- ・食品ロスの機運があがってきた。食べ残しなどに注意しながら食事をしていきたいと思う。
- ・今日の議題について、さまざまな意見をいただきながら進めていきたい。

(司会者)

- ・小牧市食育推進会議の長島会長から、あいさつをいただく。

(長島会長)

- ・第3次小牧市食育推進計画の中間地点となる年である。目標値を達成することだけが目的ではないが、計画を作っているので、数値を意識して食育活動を行うのが良いのではないと思う。
- ・前回の計画が終わったとき、食育を知っている人が40%に満たない数値であった。食育に関する活動をしている人の割合も低い数値であった。
- ・先ほど話のあった食品ロスを減らすことも食育推進活動の一環だが、何が食育推進活動であるのかあまり知られていないのではないと思う。食のあらゆることが食育推進活動であると言って良いと思うが、その意識付けが重要だと思う。
- ・食育推進会議の中では食育活動がとても活発だが、実際に一般の方に何が食育活動なのかが伝わっていないような気がする。
- ・学生に食育の活動について話すことがある。「子ども食堂のことをどれくらい知っていますか」という問いを今年入学してきた学生に聞くと、知っている人が23%、聞いたことがあるが中身を知らない人が42%、知らなかった人が32%であった。

・去年も同じ質問をしたが、去年よりも知っていた人が減り、聞いたことがある人が増えていた。去年から今年にかけて、子ども食堂に関する新聞報道が多かったので、聞いたことがある人がもっと増えたのではないかと思っていた。実際には知っている人が減っていたので驚いた。

・一般の人は、食育が自分にあまり関係のないところだと思っているのか、意識していなければ子ども食堂などが食育活動だと気付かないのではないかと思う。5年間の計画のうちの3年目に入的过程中で、食育を人に伝えるということを意識してみてもどうか。

・ポテトチップスの賞味期限の話は知らなかった。ただ、賞味期限は日にちが来たら食べられないというものではないので、技術が進めばのびると思っていた。こういった新たな情報の交換の場にもなれば良いと思う。

(司会者)

・本年度に入り、委員の変更が5名あった。順に名前を紹介するので、一言ずつお願いします。

(伊藤貴子委員、堀尾委員、大野委員、兼子委員、宇陀委員よりあいさつ)

(司会者)

・以降の議事進行について、長島会長をお願いします。

(長島会長)

・本日の会議は、定員21名に対し16名の出席をいただき、過半数に達しているので成立している。

・はじめに、議題(1)令和元年度小牧市食育推進活動についてである。今年度の食育に関する取り組みについては、事前に委員から事務局に報告されており、本日手元に資料として配布されている。

・議題(2)について、毎年6月は食育月間であり、積極的に食育の取り組みを推進することになっている。今年度の計画の中で、今月実施予定の食育に関する取り組みがあれば、一緒に報告してほしい。

・資料順に説明をお願いします。

(事務局)

・第3次小牧市食育推進計画PR版というチラシを、会議やイベントで配布する。

・市民菜園事業として、藤島と池之内の2箇所で市民菜園を行っている。藤島市民菜園の利用者数が減少していることが課題である。

・地元野菜の販売ということで、蔬菜研究会の方が作っている野菜と一緒に販売している。6月1日にバラ・アジサイまつりで販売し、今後は10月の小牧市民まつり、11月のいきいきこまきでの販売を予定している。

・毎月19日が食育の日となっているため、庁内職員用パソコンにPRのPDFを掲載している。

・6月が食育月間となっているため、広報こまき6月1日号に記事を掲載した。

・食育ホームページの活用について、この後説明する生活改善実行グループとの料理教室で使ったレシピや、食育に関する情報を掲載する。

・小牧市生活改善実行グループと連携して、料理教室を9月と1月に行う。

- ・ 7月に桃、8月にぶどう・いちじく・梨、11月に農産物全体の品評会と即売会を行う。
- ・生活改善実行グループ、食生活改善協議会、栄養教諭などと連携して、農業祭の食育コーナーで食育についての展示を行う。
- ・食育月間内に何か取り組みができないか検討中である。

(長島会長)

- ・食育推進計画PR版のチラシは、昨年度何部配布し、今年度何部配布する予定か。

(事務局)

- ・昨年度配布した枚数は把握していないが、野菜販売の際にチラシを配布した。
- ・今年度もバラ・アジサイまつりで配布し、今後の野菜販売でも配布する予定である。
- ・食育月間の6月に、駅前でチラシを配布できないか検討中である。

(長島会長)

- ・ホームページなど目につく形で周知していけると良いと思う。
- ・続いて、青山委員に説明をお願いする。

(青山委員)

- ・小学生を対象に野菜の栽培体験、稲作体験、桃の収穫体験を行う。
- ・幼稚園でサツマイモの収穫体験を行う。
- ・中学校で地産地消を目的として桃の調理実習を行う。
- ・地域の女性部に協力してもらい、大豆栽培と豆腐作りを行う。
- ・食育月間中の取り組みは特にない。

(長島会長)

- ・体験はいつごろ行うか決まっているのか。

(青山委員)

- ・野菜栽培は先月（5月）に実施した。
- ・稲作体験は6月6日に行う予定である。
- ・6月後半～7月中旬に桃の収穫体験を行う。
- ・サツマイモの収穫体験は秋に行う。
- ・大豆は栽培をして、豆腐作りを行うのは冬ごろになる。

(長島会長)

- ・食育月間の6月に行うのは稲作体験か。

(青山委員)

- ・そうである。6月に田植えを行い、10月、11月ごろに刈り取りをして、その後もちつきを行う。

(長島会長)

- ・これらの活動が食育活動であるということを子どもたちにPRしてほしい。

(青山委員)

- ・活動中にも食育について伝えており、農協のホームページでも食育について掲載している。

(長島会長)

- ・続いて、伊藤委員に説明をお願いします。

(伊藤純子委員)

- ・今日、農協のふれあい委員と陶小学校の児童が桃の収穫体験を行っていた。
- ・学校教育における健康教育・食育指導について、毎日の給食、学級活動、委員会活動の中で食育指導を行っている。継続性を持って行うことが大切だと思う。
- ・学校における農業体験の推進について、低学年は生活科、小学校3年生以上は総合の時間で野菜栽培等を行う。一色小学校は梨、陶小学校は桃などの農業体験を推進している。
- ・毎日の学校給食を通じて、楽しく食べることを知ってもらおう。
- ・学校給食を通じた食育活動の普及啓発について、栄養教諭が考えた献立の説明原稿を学校の放送委員が読んでいる。それを聞くことにより、今日の給食と食育をつなげてもらうことができている。
- ・ホームページに毎日の給食を掲載している学校もある。ホームページに掲載することで保護者や地域の方へ学校給食についての啓発ができている。
- ・PTAとの連携として、2月ごろの入学説明会で食育のパンフレットを配布したり、給食に関する話をしたりしている。
- ・野外学習などで児童がいないときに、空き教室を利用して給食試食会を行う。
- ・他機関との連携として、JAとの連携だけでなく地域協議会でもちつきを行うなど、地域での環境に合わせて活動をしている。
- ・その他として、継続的に指導することが大切である。
- ・小牧市には家庭科教育研究会があり、栄養教諭とともに食育分野の授業研究や実習に取り組む予定である。
- ・市内に6名いる栄養教諭・栄養職員は、それぞれが4～5校を担当して児童生徒の食育指導をしている。しかし所属校とそれ以外の学校では指導回数等の差が出てしまっている。
- ・食物アレルギーの子が増えており、給食が食べられず代替食や弁当を食べている子がいる。さまざまな境遇の子がいる中でも、食べることは楽しいと思ってもらえるようにしていきたい。

(長島会長)

- ・小牧市の学校は、食育に力を入れている印象がある。
- ・栄養教諭が少ないというのは改善されると良いと思う。
- ・継続的に食育指導を実施することが大切であるとのことだった。小学校は食育について教える時間が長いですが、中学校でだんだんと少なくなり、高校だとなくなってしまう。
- ・大学生は、小学校や中学校で学んだ食育について覚えている。大学を卒業しても食育について覚え

ていてもらえるようなシステムがあると良いと思う。

- ・続いて、伊藤委員から説明をお願いします。

(伊藤貴子委員)

- ・今年度も例年通りの活動を予定している。
- ・2学期以降、大城小学校の5年生の家庭科調理の補助をする。
- ・おやこ食育教室を行う。広報にも情報を掲載する。親子で料理を行うことで、食事やコミュニケーションの大切さを知ってもらう。
- ・地区健康展では、北里市民センター、東部市民センターで野菜の手量りを行う。野菜を用意しておき、市民の方に昨日どのくらい野菜を食べたかを聞いて、量りに野菜を乗せてもらい、自分が1日どのくらい野菜を食べたかを自分の目で知ってもらう。
- ・生涯骨太クッキングも広報に情報を掲載して、参加者を募集する。カルシウムを摂取しやすい乳製品などを使ったレシピを教える。
- ・歯ピカピックへ参加し、野菜の手量りを行う。
- ・農業祭でも、野菜の手量りを行う。
- ・ヘルスサポーター21事業で篠岡中学校と味岡中学校に行く予定である。
- ・みそ汁の塩分濃度調査を行う。パパママ教室に来る若い世代に対する調査については、早いうちから減塩について意識を持ってもらうことを目的としている。
- ・広報こまきに「生き生きレシピ」を掲載する。
- ・ふれあいサロン、いきいきサロン、味岡児童館の事業に参加する。

(長島会長)

- ・6月に行う事業はないか。

(伊藤貴子委員)

- ・例年だと6月に大城小学校で野外学習の事前訓練をしているが、野外学習の日程が変わってしまったので6月に実施する事業はない。

(長島会長)

- ・毎回塩分調査について報告してもらっている。繰り返し参加すると結果が良くなると聞いているが、参加者も増えているのか。

(伊藤貴子委員)

- ・増えている。

(長島会長)

- ・こういった活動を地道に行うことが重要であると思う。
- ・続いて、倉知委員に説明をお願いします。

(倉知委員)

- ・廃食用油の回収について、地球温暖化対策地域協議会に加盟している光ヶ丘小学校、小牧小学校、小木小学校の3校で月1回、回収している。登校時に声をかけたり、地域の方に働きかけたりして回収している。
- ・100cc 提供したら、エコポイント1ポイントと交換、2リットル提供したら100gの塩と交換している。
- ・市では各市民センターで回収している。
- ・さらに多くの小学校に地球温暖化対策地域協議会に参加してもらえると活動が活発になると思う。
- ・菜の花プロジェクトでは、光ヶ丘小学校と小木小学校で菜の花を栽培し、種を取り、油をしぼっている。
- ・光ヶ丘小学校の修学旅行で法隆寺に油を持って行ってもらっている。
- ・6月は刈り取りの最盛期である。食育も観点に入れながら、刈り取りを実施したい。
- ・小学生には、種まき、刈り取り、しぼることなどの大きな作業のみやってもらっている。その他の作業は小牧市女性の会が行っているのので、小学生にもいろいろな仕事に参加してもらえると良いと思う。
- ・農作業は天候などにより急に作業しなければいけないことも出てくるので難しい。学校との刈り取りの日程調整がうまくいかないこともあるが、今年はずうまく収穫できそうである。

(長島会長)

- ・昨年度菜の花から得られた油はどのくらいあったのか。

(倉知委員)

- ・昨年度は少なかった。法隆寺に持って行ったのは3リットルだった。いつもは6リットル持って行っている。
- ・多く取れると会員にたくさん分けることもできるが、昨年度はあまり分けることができなかった。多く取れたときは、還元してあげられると良いと思う。

(長島会長)

- ・3リットル取るだけでも大変な作業になるのか。

(倉知委員)

- ・2リットルのペットボトルに種をたくさん入れても、取れる油はわずかである。
- ・最初は汚い油だが、それを何か月か沈殿させてきれいにして、上澄みを取る作業を繰り返すと、きれいな黄色の油が取れる。
- ・油もいろいろな種類があるが、私たちの作っているものは、一番搾りだけを使っている。おそらく売っているものは熱を加えながらこして二番絞り、三番絞りを取って、最後に油粕として肥料にしている。

(長島会長)

- ・菜の花からわずかししか油が取れないことは、子どもたちにも伝わっているのか。

(倉知委員)

- ・7月になると唐箕体験をしてもらう。今日も光ヶ丘小学校の児童と刈り取りをして、それを踏ませて、こなしという作業を体験してもらった。体で伝えられればと思う。

(長島会長)

- ・大変な作業だが、続けてほしい。
- ・続いて、山口委員にお願いします。

(山口委員)

- ・玉ねぎの苗植えを年中と年少が11月ごろに行う。
- ・玉ねぎ掘りを5月に行った。先生も楽しみながら行うことができた。
- ・じゃがいもの植えを2月に行い、収穫を来週行う。
- ・さつまいもの苗植えは6月に行い、収穫を10月に行う。
- ・桃取りは6月下旬に行う。1人1個、先生と一緒に収穫する。以前は収穫したものを幼稚園で食べていたが、衛生的な問題により、今は幼稚園では食べずに持って帰ってもらう。
- ・夏野菜の収穫はお泊り保育のときに行う。このときも収穫したものを持ち帰ってもらう。
- ・大根とにんじんの植えは9月に行い、収穫は12月に行う。
- ・年間を通じて野菜栽培を行い、命の大切さを教えている。
- ・幼稚園により、行っている内容が異なる。
- ・園だよりで野菜を食べることを推進する内容を掲載している。
- ・肥満の子どもの保護者に指導している。

(長島会長)

- ・常に何かを幼稚園で栽培しているのは良いことである。

(山口委員)

- ・園の中からでも育てているものが見えるので良い。

(長島会長)

- ・幼稚園で収穫した野菜は食べられないとのことだが、幼稚園の給食で野菜が出たとき、子どもたちは野菜を食べられるのか。

(山口委員)

- ・以前は給食センターにじゃがいもを持って行って調理してもらっていたが、現在はできなくなった。

(長島会長)

- ・野菜栽培などの経験が身になっていくと思う。
- ・続いて、堀尾委員に説明をお願いします。

(堀尾委員)

- ・米消費拡大のため、飾り巻き寿司の講習会を5年前から行っている。出前講座で行えるようにしていきたい。
- ・9月と1月実施の市民講座(料理教室)の予行練習として、中部大の学生が考案したレシピを学生から教わりながら一緒に調理する。
- ・市民講座の本番では、生活改善実行グループの会員が参加者に教える。
- ・夏は夏野菜、冬はエビ芋を使ったレシピを中部大学の学生に考えてもらっている。野菜は小牧でとれたものを使用している。
- ・農業祭で展示する飾り巻き寿司を10種類以上作る。飾り巻き寿司を見て興味を持ってもらいたい。
- ・12月ごろに他の生活改善実行グループから教わった焼き肉のタレ作りの講習会を行う。何でも手作りできることを知ってもらいたい。

(長島会長)

- ・料理教室は欠食対策を目的として、若い人向けに行っている。
- ・SNS映えするような、自分で簡単に調理できるレシピを学生に考えてもらっている。
- ・多くの方につながっていけば良いが、参加者の定員などもあり難しい。
- ・学校給食課は欠席のため、続いて小久保委員に説明をお願いします。

(小久保委員)

- ・小牧子ども食堂を実施している。
- ・経営している「ぷらむはうす」で、食育の啓発をしている。
- ・食育推進協力店に登録している。
- ・子ども食堂は今年で3年目になった。5月8日にこども政策課が開催した青少年健全育成の会議で、子ども食堂について発表した。
- ・6月から、JAのグリーンセンターから野菜を寄付してもらい、子ども食堂で使えることになった。
- ・子ども食堂の経営について相談できるような場があると良い。

(長島会長)

- ・子ども食堂を月1回でも続けていくのはとても大変なことだと思う。グリーンセンターから野菜をもらえることになって良かった。
- ・小牧市にはフードバンクがないのか。何か受け皿があると良いと思う。

(事務局)

- ・小牧市にフードバンクはない。新聞に、県の補正予算で子ども食堂の補助を行うような記事があった。

(長島会長)

- ・子ども食堂を継続していくのは難しいことである。何か少しでも協力していきたいと思う。
- ・ヘルシーメニューを出されていると思うが、これは食育推進協力店としての活動か。

(福澤委員)

- ・保健センターで食育推進協力店、ヘルシーメニューの募集をしている。
- ・ヘルシーメニューは平成28年2月から始まった。最初のころは多くの募集があったが、現在は募集が少ない。

(長島会長)

- ・続いて、藤岡委員に説明をお願いします。

(藤岡委員)

- ・個人での活動とコープあいちとしての活動を行っている。
- ・小牧市に向けて行っているのは、ジュニアセミナーと生活展とこどもクッキングである。
- ・親子防災クッキングを開催する。被災地で行うことができるポリ袋調理に力を入れている。
- ・コープ健康クッキングを月1回行っている。1汁2菜、野菜をしっかり取ること、減塩、簡単、ヘルシーを意識した料理教室を行っている。
- ・ジュニアセミナーは今年で3年目となる。味岡市民センターで実施し、簡単に作れるものを取り入れている。小学生16人を対象にしており、毎年ちがう子に来てもらっている。
- ・生活展でブースを出している。大豆がいろいろな形に変わっていくことを伝えたり、脳トレにもなる食育カードでゲームをしたりしている。野菜の断面図から何の野菜か、調理道具を何に使うか、できあがったものが元は何からできているかを当てたり、魚の漢字を当てたりしてもらおう。
- ・食育カードはシニアの方に人気である。ゲームを通して食育に興味を持ってもらっている。
- ・ふらっとみなみでこどもクッキングを行っている。今度の土曜日にクッキーを作る。小学1年生、2年生が多いと、包丁や火を使うのが危険なため、クッキーを一人ずつ作るようになった。自分で何かを作るということを体験してもらいたい。
- ・いつもクッキングを行うときは、給食の献立表を見せて説明をしている。6月の食育月間についても伝えていきたいと思う。

(長島会長)

- ・続いて、大野委員に説明をお願いします。

(大野委員)

- ・小牧市立保育園では、「健康な体と豊かな心を作る、望ましい食習慣を身につける」を目標に、楽しく食べる子ども、お腹のすくりズムの持てる子ども、食べることに興味や関心の持てる子どもを目指し日々取り組んでいる。
- ・保育園では自園調理をしていて、職員も子どもたちも同じメニューを食べている。
- ・食育指導として、毎日の給食やおやつのおいしさを分かち合い、給食に入っている食材につ

いて話し、マナーを教えながら食事をしている。

- ・ 6月から7月以降に、栄養士による栄養指導を行う。
- ・ 5月～6月に、野菜栽培やそらまめのさやむきなどを行う。むいた豆をご飯に入れて食べるなど、簡単な調理の体験も行っている。
- ・ 毎日給食を玄関に展示し、親子の会話のきっかけにしている。
- ・ クッキングは、アレルギーに配慮しながら安全に楽しく行う。食べ物に興味を持ち、自分で作ったものを食べる喜びがもてるように取り組んでいる。
- ・ 郷土料理や行事食の提供について、名古屋コーチン入りチャーハンなどを給食で提供し、地元の食材を給食に取り入れることにより、子どもたちの興味関心につながるようにしている。

(長島会長)

- ・ 自分で栽培したものを、自分たちで食べられるのは良いことである。

(大野委員)

- ・ 自分たちで作ったものを給食に入れて食べることで、嫌いなものも食べられるようにしている。

(長島会長)

- ・ おいしいねと言って食べるのは、ちょっとしたことだが食育推進につながっていると思う。
- ・ 課題の欄に、ファーストフードやレトルト食品が多くなっているとあるが、そう感じる可能性があるのか。

(大野委員)

- ・ 子どもたちに夕食について聞くと、ファーストフードの名前が出てくることがある。それが悪いことではないが、野菜を調理して食べるということも身につくと良いと思う。

(長島会長)

- ・ 幼稚園、保育園から小学校、中学校までは食育活動が続いていると感じられる。
- ・ 続いて、福澤委員に説明をお願いする。

(福澤委員)

- ・ 例年通りの活動を予定している。
- ・ 奇数月の日曜日にパパママ教室を実施している。
- ・ 毎月、離乳食教室と初期ごっくん教室・後期かみかみ教室を行っている。
- ・ 6月から歯みがき教室を実施する。エプロンシアターなども行う。
- ・ ヤング健診結果説明を行う。
- ・ 家族の健康を考える食生活講座をヘルスマイトと一緒にを行う。
- ・ 毎週月曜日に、予約制で保健師が生活習慣病予防相談を行っている。
- ・ 健康教育、お口元気はつらつ教室を行っている。
- ・ 健康日本 21 こまき計画推進部会では、こまきヘルシーメニュー、働き世代の生活習慣病予防の改

善、子どもの朝食欠食改善のための方策、望ましい体格を知るためのリーフレットの4つの活動を行っている。

- ・ヘルシーメニューは平成28年の2月から実施しており、一番多い時では9店舗の応募があったが、今は新聞等の報道も少なくなり、募集も少なくなっている。
- ・男性は外食が多い。ヘルシーメニューを多くの店でやってもらえると良いと思う。見直しを行いながら、どうしたら広められるか話し合っていきたい。
- ・6月の食育月間の取り組みとして、こまきヘルシーメニューの募集を行っている。保健センターからお店に働きかけていきたい。

(長島会長)

- ・どのお店もヘルシーメニューを作ってもらえると良いが、栄養などの条件が厳しいのではないかと。

(福澤委員)

- ・基準の緩和も検討したいと思う。

(長島会長)

- ・続いて、若山委員に説明をお願いします。

(若山委員)

- ・こまき環境市民会議の協力のもと、昨年度と同様の事業を実施する。
- ・廃食用油の回収について、平成30年度は823.3リットルを回収し、522名の参加があった。
- ・回収量は減少傾向にあるため、さらなる周知が必要である。現在は回収を行っている3つの小学校の地区に回覧をしたり、児童全員にカレンダーを配布したりしている。他のかたちでも周知をしていきたいと思う。
- ・菜の花プロジェクトについて、種まき、刈り取り、油しぼり、菜種油の活用などを子どもたちに体験してもらうことで、資源循環型社会の形成と食育について学んでもらうことを目的に実施している。
- ・4月13日に岩崎で菜の花フェスティバルを開催した。菜の花のすいとんを無料配布した。約400名と多くの方に参加してもらった。
- ・昨年度まで市民環境講座の一つとして食育に関する講座を開催していたが、参加者が限定されてしまうこと、他の料理教室との差別化があまりできていないことから、今年度は開催の予定がない。
- ・他の料理教室との差別化を図りながら、効果的な講座を検討していきたい。

(長島会長)

- ・菜の花プロジェクトに400名が参加したと聞き、驚いた。

(若山委員)

- ・みたらしだんご、五平餅も販売し、すべて売り切れた。

(長島会長)

- ・広報のおかげで参加者が多かったのか。

(若山委員)

- ・岩崎地内に児童館があり、そこから親子連れが参加したのも要因のひとつかもしれない。
- ・今年はケーブルテレビの取材もあった。

(長島会長)

- ・続いて、兼子委員に説明をお願いします。

(兼子委員)

- ・学校給食を通じた取り組みが多い。
- ・給食をマナーよく楽しく食べること、好き嫌いなくバランスよく残さず食べること、よく噛んで食べることを日々指導している。
- ・家庭科、保健体育の授業、委員会活動、栄養教諭による巡回指導などを通じて、計画的に食育に関する内容を指導している。
- ・養護教諭からは朝ごはんをちゃんと食べるということを中心に指導してもらっている。
- ・保健だよりで、保護者にも食育について啓発している。
- ・給食の献立表が毎月出るが、献立表の一番下に「小牧の食を知ろう」というコラムがあり、郷土料理の紹介や野菜を使ったレシピなどを紹介している。

(長島会長)

- ・栄養教諭と年間で計画を立てて食育指導を行っているのか。

(兼子委員)

- ・そうである。

(長島会長)

- ・学校のあらゆる科目の中で食育指導がされていることが分かった。
- ・続いて、宇陀委員に説明をお願いします。

(宇陀委員)

- ・夏休み親子食講座として、8月にまなび創造館で小学校3年生以上を対象に行う予定である。
- ・小牧の伝統食講座として、11月に東部市民センターで大人を対象に行う予定である。
- ・どちらの講座も小牧の郷土料理に興味関心を持ってもらうことを目的として実施する。

(長島会長)

- ・伝統食について、大人が知らないと子どもに伝えることができないので、大人に向けても講座をする必要があると思う。

- ・続いて、小澤委員に説明をお願いする。

(小澤委員)

- ・愛知県では平成 28 年度から平成 32 年度の 5 か年の食育推進計画を作成している。
- ・あいち食育いきいきレポートについて、各市の食育に関する事例をウェブサイトに掲載している。
- ・食育推進ボランティアについて、県に登録した方に研修などの情報提供を行う。今年度は 5 月末から 6 月 28 日まで新規募集を行っている。
- ・食育推進ボランティアを対象とした研修を行う。尾張地域では 9 月 25 日に開催する。今年度は小牧市にある養鶏場のクレストから話を聞く予定である。
- ・あいち食育いきいきシンポジウムは、11 月頃に開催する予定である。
- ・地元農産物を活用した和食講習会は 12 月から 2 月頃に開催する予定である。
- ・小学校などで食育劇「食まるファイブ」の上演する際に、資材貸与やシナリオ提供を行っている。
- ・ウェブページ「食育ネットあいち」は、随時更新をしている。あいち食育いきいきレポートや食育推進ボランティアについて掲載している。
- ・小学生の農林漁業体験学習の推進について、毎年 1 回「学校での農林漁業体験学習に係る地域協力者一覧」を配布している。
- ・いいともあいち運動の推進をしている。
- ・来年度愛知県で食育推進全国大会が開催されることになった。今後ブース出展者を募集するので、ぜひ参加を検討してほしい。

(長島会長)

- ・食育推進ボランティアから食育について学んだ人数について、10 万人が目標とあるが、これだけ多くの人が食育について学んでいるのか。

(小澤委員)

- ・重複もある。食育推進ボランティアからどれだけの活動をしたかを報告してもらい、それを集計している。

(長島会長)

- ・菱田委員から何か意見はあるか。

(菱田委員)

- ・医師会としての取り組みは特にない。
- ・中学生ぐらいまでは食育に関する授業がある。そこで学んだことをどこまで覚えてもらえるのか。中学生から 30 代ぐらいまでは体が丈夫で、ほとんど病気をしない。この間に今まで学んだ食育についての知識が薄れていってしまう。
- ・今の日本は簡単に食べられるものが増え、過食になっている。それが続いて壮年、高齢になると疾患として出てくる。症状が出ていない中学生などに対して、将来困るから食育について教えておくというのは難しいのかもしれない。

- ・食育に関する取り組みは多く行われているので、それを続けていけば今の小学生や中学生が大きくなったときに食育について理解してもらえと思う。
- ・食品ロスに関して、個人的な意見として生産者や販売者の責任が重いように感じる。食品の取り扱いにとっても神経質になっている。
- ・買う人や使う人も安全かどうか確かめる必要があると思う。
- ・食べ物が多すぎるため、ありがたみが少なくなっていると思う。

(長島会長)

- ・自分で食べてよいかどうか確認する力というのは、どのように身につくのだろうか。

(菱田委員)

- ・中身を見ればおおよそ分かるのではないだろうか。
- ・賞味期限が今日だとしても、おいしく食べられる期限なので、まだ食べることはできる。食べてはいけないものだと認識している人も多いのではないか。
- ・ただし賞味期限が過ぎていても、何でも食べられるかということそうではないと思うので難しい。

(長島会長)

- ・私がみている大学生は管理栄養士を目指していて、食に関心をもっているが、そうでない子たちは手軽なファーストフード店に並んでしまう。自分が元気なので、今すぐに食生活を変えようとは思わないのだろう。
- ・大学生が弱くなっているようにも感じる。急に熱が出て休む学生が多くなっている。

(菱田委員)

- ・感染症が多くなっている印象はない。
- ・昔に比べて治す自信がないのではないか。何かあるとすぐに病院に行ってしまう。

(長島会長)

- ・継続的な食育の指導ができると良い。一番丈夫な時期は気にせずに食べてしまい、そのあとにつけがまわってくることになる。
- ・国の政策があまり知られていない。子どものうちから伝えられると良いと思う。
- ・欠席の方の資料の説明を事務局から願います。

(事務局)

(学校給食課)

- ・体験ブースの出店を行う。
- ・給食だよりの発行を行う。
- ・食に関する指導を行う。
- ・ホームページによる啓発活動を行う。
- ・地場産物と郷土料理の活用を行う。

(歯科医師会)

- ・ 歯の健康センター（歯ピカピック）を開催する。
- ・ 学校、保育園、幼稚園での歯科検診、保健指導、健康教育を行う。
- ・ よい歯の表彰『健口大賞』を行う。
- ・ 市役所職員、養護教諭、一般市民への健康教育を実施する。
- ・ その他の問題点として、高齢者の欠損歯数が多いことによる咀嚼機能の低下で、カロリーオーバーの栄養不足となり、認知症も増加する。
- ・ 心が弱くなると栄養面が弱くなり、身体が弱くなって、要介護となる。
- ・ 今年の4月から口腔機能低下症という病名が健康保険に入った。東浦町の町民を対象とした調査では、80～84歳の女性の82.8%がこの病気であるという。口腔機能低下症が要介護へと進展する可能性がある。
- ・ これらを防止するには、成人期（20代～50代）の虫歯・歯周病の予防対策、高齢者の欠損歯数を減少させる必要がある。それが健康寿命の延伸につながる。
- ・ 虫歯、歯周病を防ぐためには、定期歯科健診者数を増加させる必要がある。

(愛知県食品衛生協会小牧支部)

- ・ 食品営業者の自主管理体制作りのための再講習会を行う。
- ・ 食中毒防止の広報、量販店店頭での啓発活動を行う。
- ・ 食育推進協力店の推進講習会の開催、パンフレット配布を行う。
- ・ 食品営業関係従事者の検便、食品の細菌検査を行う。
- ・ 食品営業許可所得への養成講習会を行う。
- ・ 行政・指導員の食品営業施設への定期巡回指導を行う。
- ・ 食品衛生指導員の大手工場見学を行う。
- ・ 食品衛生指導員への行政の専門講師による勉強会を開催する。

(長島会長)

- ・ これで、議題（1）の令和元年度小牧市食育推進活動について、（2）食育月間における取り組みについては終了する。
- ・ 次に、「その他」について事務局から何かあるか。

(事務局)

- ・ 食育ホームページについて、イベント等の情報があれば、報告してほしい。
- ・ 中部大学の学生が考えた「ときめきおしゃれレシピ」を使い、小牧市生活改善実行グループ連絡研究会と協働で実施する料理教室を、年2回開催する。参加したい方がいればぜひ申し込んでほしい。
- ・ 6月は食育月間である。6月中に行った食育に関する取り組みがあれば、報告してほしい。農政課でとりまとめて愛知県に報告する。

(長島会長)

- ・ 進行を事務局にお返りする。

(司会者)

- ・以上をもって、令和元年度第1回小牧市食育推進会議を終了する。